

第6回世界自然保護会議トピックス

世界自然保護会議 (IUCN-WCC) は、世界最大の自然保護組織、IUCN (国際自然保護連合) が4年に1度開催する世界最大規模の会合だ。米国初の開催となった第6回WCCは「岐路に立つ地球」をテーマに、世界192カ国から1万人以上のNGO、研究者、企業、先住民、若者、政府関係者らが参加した。成果文書では、持続可能

な開発目標 (SDGs) や、(気候変動枠組条約) パリ協定、(生物多様性条約) 愛知目標を踏まえ、地球を正しい方向に導くための新しいパートナーシップの必要性が唱えられた。会場で紹介されたパートナーシップに関連する3つの取組をピックアップする。

丸山 鳴^{めい} / 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、今井麻希子 / つな環編集部



WCCで展示された水素発電自動車「MIRAI」
写真提供：IUCN日本委員会事務局

Topic
1

IUCN × トヨタ、 協働でレッドリスト作成

「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向け、トヨタは2016年5月に、IUCNとの5年間のパートナーシップを通じてレッドリスト強化を支援することを発表した。トヨタはこれまで低炭素社会実現にむけ先進的な取り組みを展開してきたが、今回の発表は生物多様性保全分野における大きな取り組みとして注目されている。会場では「トヨタMIRAIと祝う赤い未来」と題し、パートナーシップを記念した式典が開催された。本プロジェクトは、生物多様性の保護のみならず、食料源としても重要な生物種を対象に含めており、SDGsの目標2「飢餓をゼロに」の達成にも貢献するものとしても位置づけられている。

Topic
2

観光と保護をリンクして 促進させるネットワーク

生物多様性の主流化で注目を集めている分野が「持続可能な観光」である。ノルウェーのNPOであるLT&C (Linking Tourism and Conservation) は、観光が保護区の有効な管理と持続可能性に最も重要な役割を果たすことができるとして、パートナーシップを推進。プラットフォームを通じた優良事例の共有を行っている。会場ではLT&Cによるセッションが開催され、世界各地の優良事例が共有された。持続可能な観光は、「消費と生産の10年枠組み (10YFP)」においても重要課題として位置づけられているほか、今年12月にカンクン (メキシコ) で開催される生物多様性条約COP13の主要議題とされている。



発表が行われたビジネスパビリオンの様子

Topic
3

地域のSDGs 「アロハ+ (プラス) チャレンジ」

アロハ+チャレンジは、ハワイ州が設定した、2030年を目標年とした持続可能な開発目標であり、クリーンエネルギー、自然資源管理、スマートサステナブルコミュニティ、廃棄物削減、グリーン労働力・教育、ローカルフードという6つのテーマからなる。ハワイ州4島の群長、ホノルル市長によるトップコミットメントの表明のほか、ハワイ・グリーン・グロースというマルチセクターパートナーシップも設立されており、現在まで3つのゴール (クリーンエネルギー、廃棄物削減、自然資源管理) における進捗が数値化されオンラインで公開されている。



セッションに登壇する4島の群長とホノルル市長